

川越市教育委員会第5回臨時会会議録

- 1 会議の場所 川越市南公民館 講座室1号・2号
- 2 開 会 令和5年8月3日 午前10時
- 3 閉 会 令和5年8月3日 午後2時45分
- 4 教育長並びに出席した委員 新保正俊、長谷川 均、佐久間佳枝、
飯島 希
- 5 欠席委員 嶋野道弘
- 6 教育長の職務を行った者 教育長新保正俊
- 7 説明のため出席した者 教育総務部長長岡聡司、学校教育部長岡島一恵、
教育総務部副部長兼教育総務課長佐藤利貞、学校教育部副部長兼学校管理課長西貝俊哉、学校教育部副部長兼教育指導課長早川美彦、学校教育部参事兼教育センター所長嘉手川満、小学校用教科用図書選定委員会委員（川越小学校校長新家子直之、今成小学校校長竹内一博、牛子小学校校長新井久美子、霞ヶ関東小学校校長山崎紀子、霞ヶ関西小学校校長原田正則）

8 前回会議録の承認

令和4年度第12回定例会、第13回定例会、令和5年度第1回定例会、第2回定例会、第3回定例会及び第4回定例会会議録については、現在、調整中であり、次回会議において承認することになった。

9 議題及び議事の概要

日程第1議案第25号 令和6年度使用小学校用教科用図書の採択をすることについて

参事兼教育指導課長

義務教育諸学校の教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律に基づき、学校教育法附則9条に規定する教科用図書を採択する場合を除き、4年ごとに採択することとなっている。今回は令和6年度から使用する小学校用教科用図書の採択である。

また本市は、第9採択地区（市単独採択）であり、教科用図書採択については、川越市立小・中学校用教科用図書の採択に関する規則に基づき、13種目の小学校用教科用図書について教育委員会が審議し、採択しようとするものである。

ここで、今年度の採択までの概要について説明する。本年5月から本日まで規則に定められた各機関が、見本本が送付された教科用図書について綿密な調査研究と慎重な協議・検討を進めてきた。

教科用図書調査研究専門員会は、各教科の教科用図書について、公正中

立な立場から真摯に調査研究を重ね、「教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告」を作成し、教科用図書選定委員会宛に提出した。

教科用図書選定委員会は、本日までの間に3回の会議を開催し、「市町村の教育委員会等が教科書を採択するに当たっての採択基準」を基に川越市の観点を設定し、専門員会から提出された「教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告」とともに、学校からの意見、保護者の意見を踏まえ、協議・検討を行い、「教育委員会に推薦すべき教科書の報告書」を教育委員会に提出した。なお、教科用図書選定委員会から、推薦教科書として報告されていない教科書についても、採択の対象であり、審議及び採択をお願いしたい。

教育長

審議の進め方についてお諮りしたい。

小学校用教科用図書については、これまでに教科用図書調査研究専門員が教科用図書選定委員会に報告するために調査研究が行われた。教科用図書選定委員会は、「教科用図書調査研究専門員による調査研究の結果報告」、学校、保護者等に関する資料などを基に、見本本について協議・検討を行ってきた。

これらの各報告書については、会議資料として事前に各教育委員に届けられ、閲覧研究されているが、慎重に審議していくこととする。

審議の進め方については、13種目の教科用図書について、種目ごとに選定委員からの説明を求め、審議及び採択することとし、審議順は、国語、書写、社会、地図、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、保健、英語、道徳としてよろしいかお諮りしたい。

(全員異議なく同意)

教育長

次に、採択の方法についてお諮りしたい。

採択の方法については、無記名投票により、教育長及び教育委員3名の投票の結果、獲得票数が1番多かった教科用図書を採択することとし、結果を公表することとしてよろしいかお諮りしたい。

その際、獲得票数が同数となった場合は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第4項の規定に基づき、「教育長の決するところ」により採択することとしてよろしいか併せてお諮りしたい。

(全員異議なく同意)

教育長

国語について審議及び採択を行う。

選定委員

国語の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書3者、東京書籍、教育出版、光村図書出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と光村図書出版の2者とした。

東京書籍「新編 新しい国語」では、各単元とも、「見通す」、「取り組む」、「ふり返る」という課題解決的な学習過程で構成し、児童が主体的に「言葉の力」の学習に取り組めるよう工夫されている。また、各単元のでびきの終末に「言葉の力」の欄を設け、単元で児童が身に付けるべき言語能力を単元の内容に即した表現で示している。児童の学習上のつまづきを教材として取り上げて文法知識を理解・定着させ、表現の場で生かすように工夫されている。第3学年以上で巻頭に「デジタルノートの作り方」を掲載し、情報の分類、整理や順序付けなどの思考ツールの型を紹介している。読書に親しむために、著名人が読書体験を述べた文章が掲載されていたり、友達と読書体験を共有したりする読書活動が設定されている。QRコードでは、作者のインタビューを動画で閲覧したり、学習時に参照できるコンテンツを活用したりすることができる。「季節の足音」で、伝統的な言語文化に親しむことができるように工夫されている。

光村図書出版「国語」では、どの単元も児童の「問い」から学習が始まり、主体的・対話的で深い学びが行われるよう工夫されている。各単元のでびきの「見通しをもとう」では、「とらえる」、「ふかめる」、「まとめる」、「ひろげる」という単元構成が示され、下段にその学び方や言語活動の具体例が明記されている。「ふりかえろう」で、振り返り方の視点を基に身に付けた学習内容を確認し、「いかそう」で、次の学びに活用することができるように工夫されている。「情報」としての小単元が年間に2箇所、関連する単元の付近に設けられ、扱い方を学習できるようになっている。「本は友達」という小単元が設けられ、図書館の利用の仕方や、本の選び方などが紹介されている。QRコードでは、作者のインタビューや、「話すこと・聞くこと」の伝え合いの場面を動画で見ることができる。「季節の言葉」では、写真やイラストが使われ、学年の発達段階に応じて児童の身近にあるものが具体例として示され、言語感覚を養うよう工夫されている。

委員

学習過程が具体的に示されていることは、本市児童の学力向上という点においては重要と考える。各者の特徴について伺いたい。

選定委員

各者とも学習過程を具体的に示し、児童が見通しをもって学習に取り組

めるよう工夫されている。教育出版と光村図書出版では、「読むこと」の単元において学習過程を示している。東京書籍では、どの領域においても同じ学習過程で単元が構成されている。東京書籍と光村図書出版では、巻頭で学習の進め方を示している点が特徴的である。また、光村図書出版では、児童が問いをもつことから始まる構成になっている点が特徴的である。

委員

国語というのは全ての学習の基本となるものであると考える。小学生については、特に大切であるが、思考力・判断力・表現力等を養っていくための工夫について伺いたい。

選定委員

各者とも「読むこと」と「書くこと」の学習を関連付けて学習を進めるよう工夫している。東京書籍では「読むこと」と「書くこと」で学習内容や教材の内容は重なる単元を前後に続けて設定している。教育出版では、「読むこと」で学習した表現方法を使って書く活動や、学習のまとめとして感想文や報告文等を書く活動を設定している。光村図書出版では、「読むこと」で学習した文章構成や表現方法などの形式を使って書く活動を行うように単元が設定されている。

教育長

全国学力・学習状況調査の結果が公表された。全国的に、目的に応じ、複数の情報に関連付けて、それをまとめて自分の意見として書く力が試される問題の正答率が低いということである。学習指導要領においても「情報の扱い方に関する事項」があるがその点において各者の特徴はどのようなになっているか伺いたい。

選定委員

目的に応じて情報を集め複数の情報に関連付けて書く教材は3者とも設けている。東京書籍では、「読むこと（説明文）」と「書くこと」の学習の間に「情報のとびら」を位置付けている。光村図書出版では、書く教材の直前に「情報の整理」についての学習を位置付け、効果的に学習ができるよう工夫している。教育出版では、教材の中で学習した「情報の扱い方」を、付録に「情報のまとめ」として、文の理解や表現のために情報をどのように扱うかを示し、他の教材・教科や実生活にも活用できるよう工夫されている。

（教育長及び教育委員による投票）

教育長

開票の結果、東京書籍「新編 新しい国語」1票、光村図書出版「国

語」3票、他は0票となり、国語は、光村図書出版「国語」を採択することとする。

教育長

書写について審議及び採択を行う。

選定委員

書写の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書3者、東京書籍、教育出版、光村図書出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と光村図書出版の2者とした。

東京書籍「新編 新しい書写」では、系統的に整理した学習事項のポイントを「書写のかぎ」として示し、発達段階に合わせて端的に説明している。単元のはじめに行うためし書きで課題意識をもたせ、課題解決をしていく流れが見開きでまとまっている。キャラクターの吹き出しで、気付きを促したり、ポイントを示したりすることで、考えながら学習に取り組めるよう工夫されている。第3学年以上は、単元の冒頭でよい例と悪い例が比較でき、基本点画の書き方や字形、配列等を学べるようにしている。毛筆の後には「生かそう」が設けられ、学習内容を確認しながら硬筆で書くことができる。全学年で、身に付けた知識及び技能を生活に生かす「生活に広げよう」が設けられ、教科書にも書き込める実践的な構成になっている。QRコードは、動画・シミュレーション・アニメーションで整理され、児童の発達段階に合わせて活動できるよう工夫されている。巻末に「学びを生かそう」が設けられ、学習で身に付けたことを生かして取り組ませることで、次の学びへの意欲をもたせるよう工夫されている。

光村図書出版「書写」では、書写学習が始まる第1学年と毛筆学習が始まる第3学年に「スタートブック」を設け、書写の基本が学べるよう工夫されている。課題に対して考えるポイントを示したり、問いかけをしたりすることで、考えながら学習に取り組めるように工夫されている。書く時のイメージをもたせるために、基本点画の書き方や筆使いを、キャラクターの体の動きで示している。第3学年以上は、学習の「ねらい」、「学習の進め方」、「たいせつ」がセットで示され、学習の流れやポイントを明確に示している。毛筆の後に「生かそう」が設けられ、毛筆で学んだことを硬筆に生かし、関連付けて学習できる構成にしている。「書写広げたい」というページを各学年で設け、他教科でも活用できるよう工夫されている。QRコードは、動画・写真・アニメーション・資料で整理され、児童の発達段階に合わせて活用できるよう工夫されている。児童の書写への意識を高めるために、第4学年には「SDGsブック」、第6学年には「書写ブッ

ク」を特設ページとして設けている。

委 員

3者の違いはどんなところか。

選定委員

東京書籍は、「ためし書き」を行うことで、課題を明確にしている点が特徴的である。学習したことを硬筆に生かす「まとめ書き」は、3者ともに設けられているが、「ためし書き」を行うのは東京書籍のみである。

光村図書出版は、「スタートブック」、「SDGsブック」、「書写ブック」が設けられているのが特徴的である。書写学習が始まる第1学年と毛筆学習が始まる第3学年に「スタートブック」を設け、書写の基本が学べるようにしている。

教育出版は、「しょしゃの体そう」という体を動かしながら基本点画について学ぶものがある。基本点画の運筆と同じように手や体全体を動かして、体験的に学べるようにしている。また「レッツ・トライ」では、「ノートのまとめ方」や「原稿用紙の書き方」、「発表資料のまとめ方」等について書いて練習する課題を設定している。

委 員

現在使用している教科書について確認したい。

選定委員

光村図書出版の教科書を使用している。

委 員

お手本の数について伺いたい。

選定委員

毛筆と硬筆の6学年合計であるが、東京書籍は175、光村図書出版は184、教育出版は197である。

委 員

硬筆と毛筆との関連について伺いたい。

選定委員

学習指導要領に「毛筆を使用する書写の指導は硬筆による書写の能力の基礎を養うよう指導する」とあるように、硬筆と毛筆の関連を図ることは重要であり、各者においても工夫を凝らしている。

東京書籍では、毛筆の後に「生かそう」が設けられ、学習内容を確認しながら硬筆で書いたり、漢字表からも探して書いたりできるようにしている。

教育出版では、毛筆の前後に、硬筆で「ためし書き」と「まとめ書き」ができ、次ページには毛筆で学習した内容を更に硬筆で学習できるページ

構成になっている。

光村図書出版では、毛筆の後に「生かそう」が設けられ、毛筆で学んだことを硬筆に生かし、関連付けて学習できる構成にしている。

教育長

各者で扱われている「水書用紙」の違いについて伺いたい。

選定委員

付録として、「水書用紙」が各者の工夫で添付されている。

東京書籍は、「いろいろな道具をつかって書いてみよう」によりまとめて取り上げ、基本点画の書き方の練習に活用している。

教育出版は、水書用紙自体に、なぞって練習できるように線を印字している。また、すいしょマークで活用場所を示している。

光村図書出版は、水書用紙の一部に、字形を確認しながら練習するためのマス目を印字している。また、水ふでマークで活用場所を示している。

教育長

筆の持ち方などを身に付ける手立てとして、QRコードの掲載状況と3者の違いについて伺いたい。

選定委員

東京書籍は151個、教育出版は106個、光村図書出版は191個である。硬筆や毛筆の際の運筆の実演を動画にしたものを、3者とも共通して掲載している。

東京書籍は、全ての基本単元の導入にアニメーションやシミュレーションのQRコードがあり、ポイントや留意点を視覚的に共有できるようにしている。

光村図書出版は、文字文化への理解を深めるための写真や教科書の内容を補充するための教材等をQRコード化している。また、運筆の動画では、上からの視点だけでなく、ななめからの視点の映像も収録している。

教育長

光村図書出版の説明にあった「文字文化」について伺いたい。

選定委員

「文字文化」には、文字そのものの成り立ちや歴史的背景といった伝統的な「文字文化」と、社会生活における文字の活用に関する実用的な「文字文化」の2つの要素がある。光村図書出版では、学校や地域にある様々な文字や用具の写真がQRコード化されているため、後者の実用的な「文字文化」の理解を深めるきっかけとして活用することができる。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、光村図書出版「書写」4票、他は0票となり、書写は、光村図書出版「書写」を採択することとする。

教育長

社会について審議及び採択を行う。

選定委員

社会の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載された教科書3者、東京書籍、教育出版、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、教育出版と日本文教出版の2者とした。

教育出版「小学社会」では、1年間の学習の見通しをもたせたり、振り返りをさせたりしやすいように、各学年1冊構成になっている。同じ社会科の他分野との関連を見いだしながら学習を進めることができる。全ての単元で「つかむ」、「調べる」、「まとめる」、「つなげる」と学び方が統一されている。児童が学習問題をつかんだ後に調べることや調べ方、まとめ方の例示があり、活動が焦点化するよう工夫がされている。資料について3ページに及ぶイラストが折り込みの形で掲載されていたり、元は白黒写真であるものをカラーに復元する加工がしてあったりするなど、児童の関心を高める工夫がされている。巻頭にICTを活用した学習の仕方が示され、「まなびリンク」のQRコードにより、学習に関する情報を収集したり、まとめたりすることができるように工夫されている。

日本文教出版「小学社会」では、学年後半の資料を年間通して活用したり、前半の学習内容を振り返ったりすることができるように、各学年1冊構成になっている。全ての単元が「学習問題の設定・学習計画づくり」、「追究・解決」、「まとめ」、「発展」の学習過程になっているため、調べたいこと・調べ方・まとめ方の例示があり、児童が見通しをもって学習が進められるように工夫されている。写真やグラフ等の資料に番号を付け、本文中の会話や説明で活用することで理解が深まるよう工夫がされている。QRコードが豊富で、画像や動画、外部リンク等、児童がICT機器を活用して情報を適切に選択し、調べることができるように工夫されている。

SDGsと学習内容を関連付け、社会の問題を多角的に捉え、他教科とのつながりも意識できるように工夫されている。第3学年の「市のようすとくらしのうつりかわり」では、本市を教材として取り上げている。

委員

3者の良さや工夫について伺いたい。

選定委員

東京書籍は、第5学年、第6学年で2冊に分冊されているため、持ち運

びがしやすく、内容もコンパクトにまとまっている。絵が多く用いられ、児童が関心を抱きやすいようになっている。キャラクターが社会的な「見方・考え方」を示し、社会的事象を児童が多角的に捉えやすい工夫がある。地図、絵図、写真等の資料が多く掲載されている。

教育出版は、各地域の実態に合わせて選択できる「せんたく」項目が10種類と多く、地域の実情に合わせて資料を選択することができる。各時間の最初に「この時間の問い」、最後に「次につなげよう」が設定されているため、児童が抱いた疑問を「この時間の問い」として設定し、調べ、まとめた後に出てくる新たな疑問を、「次につなげよう」に載せることで、各学習時間のつながりが見えるかたちとなっている。60センチメートルに及ぶ大きなイラストも掲載されている。戦前の白黒写真を人工的に着色する等、児童の関心を高める工夫、特に資料活用に関しての工夫が見られる。

日本文教出版は、本文が、キャラクター同士の対話で構成されている箇所と、文章で表記されている箇所に分けられている。文章で表記されている箇所は、知識に関する内容であり、背景色はピンクで示されている。対話で構成されている箇所は、児童が考える思考に関する内容となっている。明確に分かれているため、児童が家庭学習で振り返りやすく、教師が具体的にどの視点で社会的事象を捉えればよいのかが分かる。資料数が豊富で、QRコードから閲覧できる資料数も多くなっている。児童や学級、学校の実態に応じ資料を選択し活用することができる。第3学年の「市のようにくらしのうつりかわり」では、本市が28ページにわたって取り上げられているため、住んでいる地域が教科書に掲載されることで、児童がふるさとへの誇りを持つきっかけとなる可能性がある。

委 員

児童には地域に親しみや興味をもってもらいたいと考える。3者の中で、埼玉や川越に関してどのような取り扱い方をしているのか伺いたい。

選定委員

東京書籍は、第4学年において見沼代用水とさいたま市、第5学年において関東内陸工業地域で川越市と狭山市を取り上げている。第6学年では「子育て支援の願いを実現する政治の例」としてさいたま市、同単元の「ひろげる」の中で、川口市の福祉事業を取り上げている。また、「日本の経済や産業の発展に貢献」の単元で深谷市を取り上げている。

教育出版は、第4学年で見沼代用水と見沼新田の開発、秩父夜祭、第5学年で春日部市の首都圏外郭放水路、第6学年でさきたま史跡の博物館、稲荷山古墳出土の鉄剣として行田市が取り上げられている。

日本文教出版では、第3学年の「市のようにすくらしのうつりかわり」で、128ページから155ページにかけて本市を取り上げている。第4学年で荻野吟子と熊谷市を取り上げてている。第6学年では「安心してくらし続けられるまちづくりに向けて」の単元で、川口市、稲荷山古墳が取り上げられている。

委員

3者の中で、災害についてどのように取り扱っているか伺いたい。

選定委員

3者とも第4学年、第5学年、第6学年で取り扱っている。第6学年は選択項目の1つとなっているが、教育出版のみ地震と雪害、2つの選択項目が用意されている。取り扱う災害に関しては、第4学年では、教育出版、日本文教出版は雪害についても題材としている。第5学年では、東京書籍、教育出版は災害ごとに減災・防災対策を扱うのに対し、日本文教出版は自然災害全般というかたちで学習を進めている。また第6学年は、東京書籍、教育出版では東日本大震災を扱うのに対し、日本文教出版では、広島豪雨災害を題材としている。

委員

3者における各単元の授業の流れはどのようになっているか伺いたい。

選定委員

3者とも、単元の最初には学習問題を設定する場面として、東京書籍、教育出版では「つかむ」、日本文教出版は「問題を発見する力を身につけよう」がある。その後、書籍やインターネット、グラフや表からの読み取りなど様々な手法を用いて学習問題を調査する場面として、東京書籍、教育出版では「しらべる」、日本文教出版では「問題を追及・解決する力を身に付けよう」がある。単元の最後には、学習問題の答えを文章や図、新聞等、様々な手法を用いて表現する場面として、東京書籍、教育出版では「まとめる」、日本文教出版では「問題をほりさげ、よりよい未来をつくる力を身に付けよう」が設定されている。

委員

本市は主権者教育に力を入れ、各者とも充実しているが、このことについて特徴的な取扱いはあるか伺いたい。

選定委員

3者とも自分の意見を書いたり、他者の意見を聞いたりする場面が各単元で設けられている。東京書籍については、「政治の仕組みと選挙の導入」で選挙について扱い、また「市議会の働き」の学習の中でも取り扱っている。歴史学習の大正時代の民主主義の学習では選挙権について触れてい

る。

日本文教出版では「政治学習のさらに考えたい問題」として選挙の投票率等について、また、選挙権については大正時代の歴史学習、戦後の日本の学習の中で押さえられている。

教育出版では政治学習の「つなげる」の中で、選挙の投票率について扱っている。歴史学習の最後には、「歴史を学ぶ意味を考え、未来につなげよう」として、有権者の資格の推移を追って各時代の人々の選挙に対する思いを捉え、主権者意識の醸成につなげている。

委員

今の教育出版の説明で、選挙の歴史を通して、公民的な分野と歴史的な分野がうまくつながっているように感じた。他分野とのつながりについて、他の2者で何か特徴的な点はあるか伺いたい。

選定委員

内容の随所で各教科と関連する部分がある。特に第3学年で初めて社会科が始まるが、生活科とのつながりという点において、東京書籍では、巻頭に「生活科で学んだこと」、「これから社会で学ぶこと」を設けている。

教育出版では、「生活科を振り返ろう」、そして「社会で使う見方・考え方」について説明がある。

日本文教出版では、社会科の始まりに、生活科と社会科の学習それぞれについて触れている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、教育出版「小学社会」1票、日本文教出版「小学社会」3票、他は0票となり、社会は、日本文教出版「小学社会」を採択することとする。

教育長

地図について審議及び採択を行う。

選定委員

地図の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書2者、東京書籍、帝国書院について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と帝国書院の2者とした。

東京書籍「新編 新しい地図帳」では、各所にキャラクターを用い、問いかけや気付き、雑学などを投げかけることで、児童にとって楽しく地図学習ができるよう工夫がされている。また、「ホップ、ステップ、マップでジャンプ」として課題に挑戦しながら知識及び技能が向上できるよう工

夫がされている。学習内容に合わせた、その土地の様子と産業、歴史などについて、その情報を得やすいよう、地図以外の資料も豊富に載せられている。学習用途に対応しやすいように、日本の地方地図は2種類の縮尺を基本とし、その他に特別な縮尺地図や活用目的に合わせた地図などが見開きや1ページで収められている。児童の興味・関心、発達段階に応じた使い方ができるようにするために、統計・写真資料が豊富に掲載され、社会科以外の学習にも活用できるとともに、QRコードを用いた様々なコンテンツが用意されている。

帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」では、キャラクターが各ページで地図の見方や気付きを投げかけ、児童が知的好奇心を高めながら学習に取り組めるように工夫されている。地図活用の技能向上を図るために、地図を使い始める第3学年には「地図のやくそく」があり、学年ごとの活用のためには「地図マスターへの道」がある。SDGsや自然災害など、今日的課題にも対応し、その学習に生かせるように情報が盛り込まれている。日本の地方地図は、2種類の縮尺の他に「広く見わたす地図」があり、発達段階や学習用途に応じて活用できるよう工夫がされている。また、調べ学習のためにも、大都市圏の地図、歴史、産業に特化した地図がある。デジタル端末に対応したQRコンテンツがあり、デジタル地図、ドローン映像、クイズ等が掲載されているほか、47都道府県のデジタル地図も利用でき児童が深く主体的に学べるよう工夫されている。

委員

地図帳を使う上での配慮や工夫について伺いたい。

選定委員

2者ともに、文字はユニバーサルデザインフォントを使用し、帝国書院はユニバーサルデザインフォントを独自開発している。また、2者ともに、地名表記は白い縁取りをして見やすくしているのに加え、東京書籍は第3学年以上の漢字に、帝国書院は地名には全てルビを付している。色彩に関しては、東京書籍はメリハリのある色調で、帝国書院に関しては下地に文様を入れ判別しやすくしている。東京書籍は、色覚特性への配慮として、色のみによる文字や図形の判別を避け、形を変えて区分するようにしている。カラーユニバーサルデザインに取り組むボランティア団体の協力を得て、色にかかわる表現を点検している。一方、帝国書院はインクルーシブ教育へ配慮し、手話による都道府県の表し方を紹介している。

委員

掲載されている資料の特徴について伺いたい。

選定委員

2者ともに、QRコードによる資料掲載がある。QRコードの数は、東京書籍は37、帝国書院は51である。コンテンツ数は、東京書籍が137、帝国書院が600である。また、児童が親しみをもてるような地図クイズや、ドローン画像、役立つリンク集などはどちらの発行者にも掲載されている。帝国書院は、交通のみの地図や産業などの地図といった各地方の主題図や、大豆の生産量が多い都道府県といった項目ごとによる示し方などの統計資料がある。また、地図帳に掲載されている地図も掲載され、地図帳上では小さく見えにくい部分も、画面上で拡大して見るができるようになっている。

委員

地図帳の活用を促すような工夫があるか伺いたい。

選定委員

東京書籍は「ホップステップ、マップでジャンプ」、帝国書院は「地図マスターへの道」といった、地図帳から地名を探す問題や、地図帳を見ながら考える問題を掲載したコーナーを設けている。帝国書院は、巻末に「地図マスターへの道」を全て記録できるページも設けている。2者ともに、社会だけでなく理科や家庭科、外国語、算数、国語、道徳、音楽でも使用できるようになっている。理科では方位や気候、家庭科では料理や衣服、外国語では英語表記の国名や特産物を載せている。東京書籍は、校外学習で使えるよう、日光や鎌倉には都市図について、QRコードのコンテンツが掲載されている。

委員

自然災害に関連する掲載について伺いたい。

選定委員

2者ともに、近年起きた自然災害に関して取り上げている。東京書籍は、写真を6点、記述のみの掲載が37点、帝国書院は写真を5点、記述のみの掲載が15点掲載している。防災については、東京書籍は折り込み資料として宮城県南三陸町のハザードマップを掲載している。帝国書院は各地の防災マップ等を2ページに渡り掲載している。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」4票、他は0票となり、地図は、帝国書院「楽しく学ぶ 小学生の地図帳」を採択することとする。

教育長

算数について審議及び採択を行う。

選定委員

算数の教科用図書調査研究専門委員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書6者、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、新興出版社啓林館、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と新興出版社啓林館の2者とした。

東京書籍「新編 新しい算数」では、問題解決的な学習を基本にして構成され、資質・能力がバランスよく育成されるような展開となっている。

「同じように考えると」、「それなら」など、既習の学習内容を生かすポイントを示すとともに、単元中盤以降は吹き出しや補助発問を減らし自ら問題解決する機会が増えるよう構成されている。小学校6年間の学びの系統性が意識され、児童が数・図・式を主体的に用いて思考し協働的に学ぶことで、新しい学習内容を身に付けるよう配慮されている。また、学習のまとめでその時間に働かせた数学的な見方・考え方を可視化し、学びを深めることができるよう工夫されている。Dマークなどの豊富なデジタルコンテンツが掲載され、単元導入から問題解決、学習状況の把握やつまずき対策など幅広く活用できるよう考慮されている。第6学年の最終単元では、以前の学びを想起し図解資料を参考に学び直す構成で、小中学校の円滑な接続が図られるよう工夫されている。

新興出版社啓林館「わくわく 算数」では、自分の考えを表現することや主体的に学ぶ姿勢を大切にし、話し合いを重視した構成になっている。学びの系統性を大切にし、既習の学習内容を活用することで児童が新しい学習内容を身に付けるよう配慮されている。巻頭に「算数で使いたい見方・考え方」が示され、児童が問題解決を進めたり、振り返りを行ったりする場合に参考にできるよう考慮されている。また、「めばえ・めあて・まとめ」を明示するとともに、キャラクターの言葉にマーカーを付けて強調することで、児童が数学的な見方・考え方を働かせ、学びを深めることができるよう工夫されている。解説動画をはじめ、動かす、問題、スライドなどのデジタルコンテンツが豊富に掲載され、学びを支援できるよう配慮されている。また、各学年のつまずきへの対応に加え、第6学年の巻末では領域ごとの総復習や中学校との関連が掲載され、小中学校の円滑な接続が図られるよう工夫されている。

委 員

知識及び技能を確実に習得するのが非常に大事だと考えるが、それに対して各者が、どのような工夫をしているか伺いたい。

選定委員

全者ともに、1時間の展開の中で練習問題に取り組めるように構成されているため、その時間で学んだことを確かめられるように工夫されている。また、学習内容の定着を図るために、単元末や巻末にも練習問題が用意されている。

東京書籍では、各単元の練習問題と対応した補充問題が難易度別に2種類用意されているため、個別最適化された学びに活用することができる構成になっている。

大日本図書では、毎時の適用問題を掲載し、巻末補充問題が全単元にわたり設定されているため、習熟度別に対応しやすい構成になっている。

学校図書では、代表的な数学的な見方・考え方をキャラクターで示すことで、児童が自然に活用できるように配慮されている。

教育出版では、巻末の練習問題には、「きほんの問題」と「ジャンプ問題」を設定し、習熟度に応じて練習問題の量を調整できるように配慮されている。

新興出版社啓林館では、学びのつながりを感じながら進められるよう、巻頭や巻末で既習事項とのつながりが示されている。

日本文教出版では、単元末に「間違いやすい問題」を設け、つまずきやすい内容への対応が工夫されている。

委 員

協働的な学びの実現というのが非常に大事だと考えるが、それに対する工夫があれば伺いたい。

選定委員

全者とも、キャラクターや吹き出し等を用いて対話の場面を示すことで、実際の授業でも話し合いながら学んでいく姿勢を育むことができるよう工夫されている。

協働的な学びを実現するための工夫が特に見られる教科書として、東京書籍では、多様な考えに触れることで、自分の考えと他者の考えの比較・検討し、自分の考えをより最適なものに変容させることを目指した協働的な学びの過程を示す工夫がされている。

新興出版社啓林館では、児童が自ら問いや見通しを立てる様子をめあてにつなげ、学ぶ目的を明確にすることで、協働的な学びに向かうように工夫されている。

委 員

小学校・中学校の円滑な接続についての工夫を伺いたい。

選定委員

全者ともに、6年生の最後の単元に、算数で学習した内容を確認する単

元を設けている。この単元において、算数の学習で培ってきた見方・考え方が、中学校の学習でも役立つことを実感し、各領域の核となる内容を振り返ることができるよう工夫されている。

特に工夫が見られる教科書として、学校図書では、「中学校へのかけ橋」として、算数で学習した内容を確認する単元を別冊で構成している。

委員

算数は、小学生の頃から嫌いになったり、苦手意識を持ったりする児童がいると考える。そこで児童が算数に興味をもったり算数を身近に感じたり自ら学びたいと思う事ができるような、自ら学習に向かう意欲を高めるような工夫があるか伺いたい。

選定委員

全者とも、自ら課題を見付け、その課題について協働的に解決する学習の進め方を、イラストや写真、吹き出し等で示す工夫がされている。

委員

現在使用している教科書について確認したい。

選定委員

東京書籍の教科書を使用している。

委員

小学校・中学校の円滑な工夫というものを質問していたが、幼稚園や保育園から小学校に入学し最初に学び始める算数というものに苦手意識をもたないような工夫があれば伺いたい。

選定委員

全者ともに、入門期では、小学校入学前の遊びなどを想起させた場面を設定する工夫がされている。また、教科書に直接書き込むことができ、授業中に教科書やノートを出し入れする必要があるように配慮されている。

特に工夫が見られる教科書として、東京書籍、大日本図書、新興出版社啓林館の3者は、第1学年上巻でA4判を採用し、児童が書き込みやすく、ブロックの作業がしやすいよう工夫されている。

教育長

全国学力・学習状況調査が公表されたが、昨日の新聞報道を読んだところ、ある大学の方が全国学力・学習状況調査は学校現場に対するメッセージであるということを仰っていた。そのためにも数学的な見方・考え方がいかに小学校・中学校を通じて育てられるかが非常に大切であると考えている。特に公式や定義の意味をじっくり考えさせるような作りの教科書はないものかと確認してきたが、特に数学的な見方・考え方を働かせて、活動を充実させるためにどのような工夫が各者に見られるか、気付いたこと

があれば伺いたい。

選定委員

全者とも、問題解決的な学習を進める中で、キャラクターや吹き出しを使って、数学的な見方・考え方を使い具体的な操作活動や図、式、言葉を結び付けて考え説明し、話し合う活動が行われるよう工夫されている。

東京書籍では、既習を生かして考えることを促進する場面で、吹き出し「同じように考えると」が新設されている。

大日本図書では、数学的な見方・考え方が「ひらめきアイテム」によって示され、数学的な見方・考え方を活用しながら数学的活動に取り組み、考える楽しさが感じられるよう工夫されている。

学校図書では、既習事項や生活とのつながりを意識させることで、自ら問題を見だし、新たな数学的活動が展開できるように工夫されている。

教育出版では、単元末や巻末では、算数の学習と日常の場面をつなげ、「わかる・できる」から「使える」学力に高めるよう工夫されている。

新興出版社啓林館では、児童の問いや気づきを「めばえ」として提示することで、自ら課題を発見し、新たな数学的活動ができるように工夫されている。

日本文教出版では、各単元のはじめに、児童の興味や好奇心に働きかける題材を取り入れることで、身近に算数を感じながら日常生活と算数の関連を図って解決できるよう工夫されている。

教育長

教育出版は、日常生活とのつながりがあると説明があったが、東京書籍と新興出版社啓林館の2者について日常的な題材を扱うことについて2者の特徴を伺いたい。

選定委員

2者ともに日常的な題材が多く取り上げられ、身近に算数を感じながら、日常生活と算数の関連を図るよう工夫がされている。

東京書籍では、巻頭の「私と算数」で、著名人が算数と日常のつながりを説き、例えば、大谷翔平選手がバットを振る角度や速さ、あるいは投手として対戦する選手の打球方向の割合などで、算数の身近さや有用性が実感できるよう工夫されている。

新興出版社啓林館では、単元のはじめに日常生活の諸問題を取り上げ、算数とのかかわりを実感しながら学習を進めることで、日常生活の諸問題を解決できるよう工夫されている。

委員

本市では授業を「川越授業スタンダード」というかたちで進めている

が、教員が使うにあたり、より使いやすいといった意見があるか伺いたい。

選定委員

推薦している東京書籍や新興出版社啓林館２者ともに、児童の気付き、あるいは問いから自ら課題を見付けて解決し協働的に学ぶという構成になっているため、本市の授業に有効的に活用できるものであると考える。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新編 新しい算数」３票、教育出版「小学算数」１票、他は０票となり、算数は、東京書籍「新編 新しい算数」を採択することとする。

教育長

理科について審議及び採択を行う。

選定委員

理科の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書６者、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、信州教育出版社、新興出版社啓林館について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、大日本図書と新興出版社啓林館の２者とした。

大日本図書「新版 たのしい理科」では、身近な題材への問いかけや読み物から学習が始まり、「りかのたまてばこ」、「サイエンスワールド」では、学習内容と生活を関連付け、学びを実感できるように工夫されている。問題解決の学習過程を掲載し、学習の流れを意識できるように工夫されている。また、「結果」と「結果からいえること」が分けて記載され、友達と話し合いながら思考を深めていく場面と知識を定着させる場面を分けて扱うことができるよう工夫されている。さらに、単元末の「たしかめよう」では学習事項を自ら確認できるよう工夫されている。実験ごとに「注意マーク」が記載され事故防止に配慮されている。どのような資料が見られるのか、簡単な見出しがついたＱＲコードによる参考情報が活用でき、生物の愛護や生命を尊重する態度に関わる内容に「環境マーク」、ＳＤＧｓ 関する内容に「ＳＤＧｓ マーク」が付けられている。巻末には、既習事項や、理科室のきまり、器具の使い方等がまとめて記載されている。Ａ４判の写真やイラストが豊富に使われている。

新興出版社啓林館「わくわく理科」では、導入は見開きページで既習事項や身近な疑問が記され、児童の興味・関心を喚起するように工夫されている。変化を比較するために豊富で分かりやすい写真を用いたり、確実に

知識が身に付けられるよう重要なところはマーカーラインで強調して表現されたりしている。また、問題解決の過程を「学びのライン」でつなぎ、学びの見通しがもてるように工夫されている。さらに、単元末では「まとめノート」で学習を振り返り、「たしかめよう」の問題で学習内容の確認ができるよう工夫されている。安全に配慮が必要な箇所には多種類のマークを配置し注意を促している。QRコードを掲載し、既習事項や実験のやり方などの動画があり、ICT機器が活用できる場面においては「ICT」のマークが記されている。「ICT活用」、「SDGs」、「STEAM」などに対応できるよう工夫されている。巻末には、関連施設の活用について、分かったこと・考えたことを分かりやすく人に伝えるポイント等が記載されている。教科書のサイズが、机上スペースにゆとりをもてるA B判となっている。

委 員

問題解決の過程における工夫について伺いたい。

選定委員

各者ともに、巻頭において、問題解決の過程を意識し、思考力・表現力・判断力等を育成できるよう工夫されている。

東京書籍は、巻頭「各学年で学ぶこと」、「理科の学び方」において問題解決の過程を「学びのライン」でつなぎ、学びの流れが示されている。

大日本図書は、巻頭「理科の学び方」と各学年では「特にココ！」を焦点とした記載がされ、育成を目指す問題解決の力に「黒ひし形マーク」を付けて強調し、重点的に育成できるよう工夫されている。ノートの例や、具体的な対話例から、児童の発想や表現を引き出すための工夫がされている。

学校図書は、巻頭「各学年で学ぶこと」、「科学の芽を育てよう」という記載がされ、「考察」では、考える視点を明確に示し、ノートの書き方の例や図や表を活用する例が提示されている。「活用学びを生かそう」で話し合う活動を取り入れている。

教育出版は、巻頭「自分たちの考えを伝え合い、学び合おう」、「学習の進め方」という記載がされ、見通しがもてるように問題解決の過程が記載され、「結果から考えよう」では、結果によって予想が確かめられたか考えを促すように工夫されている。

新興出版社啓林館は、巻頭に「理科の楽しみ方」、「季節ごよみ」が記載され、問題解決の過程を「学びのライン」でつなぎ、学びの見通しがもてるように工夫されている。「考察しよう」では、キャラクターの吹き出

しに、見方・考え方マーカーを付け、思考力・表現力・判断力等を働かせることを促すように工夫されている。

委員

安全上の配慮にはどのようなものがあるか伺いたい。

選定委員

どの教科書も安全な実験・観察を行うために注意点をマークで示し、視覚的に分かるようにしている。

東京書籍は赤で「きけん」マークが記載されている。

大日本図書は赤で「注意」マークが記載されている。

学校図書は赤で「注意」マークが記載されている。

教育出版は赤で「注意」、「危険」マーク、裏表紙に「理科の安全の手引き」が記載されている。

新興出版社啓林館は「注意」など多種類のマークが使い分けて記載されている。

委員

過去に比べて、児童の理科の学習の基盤となる自然体験、生活体験が乏しくなっている状況であると考えているが、観察や実験、自然体験や科学的な体験における工夫について伺いたい。

選定委員

どの教科書も生活科との関連を考慮し、ものづくりなどの科学的な体験や身近な自然を対象とした自然体験の充実を図るようにしている。

東京書籍は、単元配列や観察・実験の方法などを工夫し、体験活動や発展的・補足的な学習の時間を確保できるようにしている。

大日本図書は、観察、実験、ものづくりなどを通して自然の事物・現象に直接触れ、見る、探す、作る、試すなど全身を使い、体感を働かせた体験活動を取り上げている。

学校図書は、自然に親しみ、自然の事物・現象に直接触れる場や機会を設け、見る、触れる、作る、試す、探すなどの感覚に基づいた活動が取り上げている。

教育出版は、観察、実験などを通して自然の事物・現象に直接触れ、全身を使い、体感を働かせた体験活動を取り上げている。

新興出版社啓林館は、直接体験を行いながら学習を進められる展開になっている。また、単元導入では「思い出そう」や活動の場面を設定し、児童の体験を生かした学習が行えるように工夫している。

委員

現在使用している教科書について確認したい。

選定委員

新興出版社啓林館の教科書を使用している。

委 員

環境教育への視点について伺いたい。

選定委員

どの教科書も、単元や内容に応じて環境保全や生命尊重の視点で学習内容を捉えることができるようになっている。

東京書籍は「環境マーク」、大日本図書は「環境マーク」、学校図書は「マーク」、教育出版は「SDGsマーク」、新興出版社啓林館は「自然を大切にマーク」で学習内容が記載されている。

委 員

STEAM教育への視点について伺いたい。

選定委員

全ての教科書において横断的・総合的に学ぶことができるよう他教科や実生活につながるよう工夫されている。

東京書籍は、単元末の「こんなところにも！理科の世界探検部」などにおいて芸術に関するトピックを積極的に掲載し、理科と芸術とのつながりを意識できるようにしている。

大日本図書は、学習内容に関連する科学技術の紹介、ICT機器の活用について促す構成や、資料提示をすることで、横断的・総合的に学んで実生活に生かしていく学習ができるように工夫している。

学校図書は、伝統文化や仕事、くらしに関わることなども扱い、教科の枠を超え、児童が触れることができるよう配慮されている。また、環境やくらしについても理科で総合的に学ぶことができるよう他教科を意識した記述となっている。

教育出版は、「科学のまど」、「資料」などで学んだことが生活や社会につながる資料を掲載し、SDGsとの関連も示され、総合的に学ぶことができるよう構成されている。

新興出版社啓林館は、理科の学習をベースとして、技術やものづくり、アート、算数・数学的な発想を組み合わせた題材には、「STEAM 理科×アート」といったマークで示し、教科横断的な考え方や視点が養われるようになっている。

教育長

推薦した2者の良さと違いについて伺いたい。

選定委員

2 者ともに、問題解決の過程を示し、学んだことが次の問題へつながるように構成されている。

大日本図書では、各活動における「問題」と「結論」が正対するように配置されている。

新興出版社啓林館は、「問題」と「まとめ」が正対するように配置されているが、「まとめ」の中に知識の「説明」も含み示している。

また、教科書のサイズについて、大日本図書はA 4 版、新興出版社啓林館はA B 版であり、新興出版社啓林館の方が軽量である。

教育長

児童が扱う上で、教科書のサイズに関して、選定委員の意見を伺いたい。

選定委員

A 4 版は写真や説明を大きく、ダイナミックに掲載できる点が特徴である。A B 版については、児童が手に取った時の扱いやすさ、机に置いた時のスペースが確保できる点が特徴である。また、A 4 版に掲載されている写真と比較しても、写真自体の大きさはほぼ変わらない。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、大日本図書「新版 たのしい理科」3 票、新興出版社啓林館「わくわく理科」1 票、他は0 票となり、理科は、大日本図書「新版 たのしい理科」を採択することとする。

教育長

生活について審議及び採択を行う。

選定委員

生活の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載された教科書7 者のうち、東京書籍、大日本図書、学校図書、教育出版、光村図書出版、新興出版社啓林館について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と新興出版社啓林館の2 者とした。

東京書籍「新編 新しい生活」では、主に単元の導入時に知識及び技能として学んでほしいことを「エクスクラメーションマーク」で、活動のめあてなどは「クエスチョンマーク」で、まとめや発展学習には「ハートマーク」の表示とともに、絵や吹き出しの文字で、学びの手掛かりになるように工夫されている。上巻巻頭の「がっこう せいかつ すたあと」では、スタートカリキュラムで行われる活動が写真やイラストで具体的に示されている。「保護者の皆様へ」のメッセージでは、生活科で学ぶめあて

や内容が添えられている。下巻では、他教科との関わりや、発達段階に合わせてより具体的な表現方法を示すことで、自分の思いをくわしく伝えられるよう工夫されている。上巻末の「いきものずかん」では、生き物が本物同様の大きさに描かれ、比較したり観察場面で探したりしやすいように工夫されている。上下巻末の「かつどう べんり てちょう」では安全の注意喚起やテーマ毎に気付きを促す場面絵や協働的な学びの活動例を掲載している。QRコードから動画、クイズ、図鑑などを見ることができる。

新興出版社啓林館「せいかつ」では、單元ごとに「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階で構成され、導入、主な活動、振り返りと学びの連続性を意識できるよう工夫されている。見つける、比べる、試す等のキーワードと多様な活動例が示されている。上巻巻頭の「すたあとぶっく」では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を基に、スタートカリキュラムがイラストや写真で示されている。活用の仕方や保護者の関わり方等が「保護者の皆様へ」で添えられている。下巻では、季節ごとに街の風景、食、各地域の行事が取り上げられ、社会や理科の学習にもつなげている。下巻末の「ステップブック」では児童と保護者へ第3学年への道筋を示している。「びっくりずかんL I V E」では季節ごとに動植物が本物の大きさに比較できる資料が掲載されている。巻末の「がくしゅうずかん」では安全や活動方法のヒントが表現力を高められるよう具体例で提示している。「学びウェブ」ではQRコードから「デジタル探検ブック」等の資料が見られる。

委 員

本市で行われている「ふるさと学習」と関連した授業展開に活用しやすい教科書があるか伺いたい。

選定委員

2者とも学校の周りにある施設やお店を調べる「まち探検」の単元を第2学年で設定し、自分の住んでいる地域の素敵などところを見つけようという学習を行う。この内容は、地域に愛着をもつ「ふるさと学習」につなげていけるものとする。また、秋を紹介するページにおいて川越まつりの写真を掲載している。

委 員

学習指導要領で、気付きの質を高めることが重要であるとされている。新しい教科書では、どのような配慮や工夫があるか伺いたい。

選定委員

「気付きの質の高まり」は、児童が主体的に直接体験を通して、繰り返し関わりを続けるような活動から生まれてくる。各者とも児童の様子の写真

真やイラストの中に、吹き出しを設け、つぶやきや気付きを掲載し、体験における着目点等を明示し、児童の気付きにつなげる工夫をしている。

東京書籍は巻末の「かつどう べんりてちょう」で「見つける」、「例える」、「比べる」という考え方について、具体例を添えて紹介している。

新興出版社啓林館は巻末の「がくしゅうずかん」では、思考ツールをイメージしたイラストで学びのヒント等を紹介している。

委 員

第1学年、第2学年が使う教科書であり、幼児期からの接続や第3学年の理科、社会への接続が大切だと考えるが、その点について特徴的な工夫について伺いたい。

選定委員

各者とも、スタートカリキュラムとして、学校生活への導入単元を掲載している。東京書籍は「がっこう せいかつ すたあと」、新興出版社啓林館は「がっこう だいすき いちねんせい」という単元を設け、どちらも「保護者の皆様へ」の欄を設けて家庭の連携を促している。特に新興出版社啓林館については、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を写真で示したページから始まり、幼児期の振り返りから単元を始めているところに特徴がある。

また、第3学年への進級の取扱いについては、東京書籍は下巻巻末に第3学年の学習を想起させる写真を1ページ掲載している。新興出版社啓林館は下巻巻末に8ページの「3年生へのステップブック」を掲載し幼児期から第3学年、将来の夢までつながる学習の流れを示している。

委 員

SDGsの取り扱いについて伺いたい。

選定委員

各者とも現代的な課題との関連としてSDGsやそれに関わる活動について取り扱っている。特徴的な例として、光村図書では、関連する単元にSDGsのマークを記載し、「保護者の皆様へ」という脚注で家庭での取組を促している。

大日本図書は「やってみよう 生活科」として生活科の活動と結び付けながら、SDGsの問題を取り上げている。

新興出版社啓林館は「ちきゅうのみらいをかんがえる」という巻末の学習図鑑の中で、いきものの飼育について示している。

委 員

東京書籍及び新興出版社啓林館は学習導入時など非常に工夫されていると考える。２者の違いについて伺いたい。

選定委員 東京書籍は文字情報の量が少なく、マークを使ってめあてや問いかけに注目しやすくなっている。学習段階の表示については、四季に合わせて単元の表示の色を分けてあり、小單元ごとに主に育成を目指す資質・能力について本文とマークで示している。また、紙面構成が全編を通して一貫していることで授業の流れがイメージしやすくなっている。

新興出版社啓林館は、情報量が多く、知りたいことが詳しく書かれ、第３学年以上の理科や社会へのつながりが意識された構成となっている。学習段階において、単元の導入を「わくわく」、主な活動を「いきいき」、振り返りを「ぐんぐん」と３段階毎に色を分けて記載し、学習の進み具合を児童や先生が認識しやすくする工夫をしている。

また両者サイズが異なり、東京書籍はＡ４版であるが、新興出版社啓林館はＡ４版より４センチメートル短くなっている。また厚さは新興出版社啓林館の上巻が１４８ページで最も厚く、東京書籍の下巻が１２２ページで最も薄くなっている。

委 員

教員から、「使いやすそう」、「使ってみたい」といった意見があるか伺いたい。

選定委員

使いやすそうな教科書は、推薦した東京書籍、新興出版社啓林館である。理由は、めあてや問いかけに着目しやすい点、情報が詳しく書かれている点、また、調べるための資料を図鑑として掲載したり、活動における注意事項をしっかり約束として載せてあったり、児童と教員が一緒になって指導しやすいこと、さらに具体的な授業の展開をイメージしやすくする板書の掲載等があり利用しやすい。そのため、この２者を推薦した。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、東京書籍「新編 新しい 生活」４票、他は０票となり、生活は、東京書籍「新編 新しい 生活」を採択することとする。

教育長

音楽について審議及び採択を行う。

選定委員

音楽の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書２者、教育出版、教育芸術社について、調査研究を行っ

た。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、教育出版と教育芸術社の２者とした。

教育出版「小学音楽 音楽のおくりもの」では、音楽づくりや、鑑賞を表現に生かす教材等、多彩なジャンルから楽曲が掲載されている。巻末の「音楽ランド」、「ショートタイムラーニング」でも幅広い教材が扱われている。歌唱共通教材「にっぽんのうた みんなのうた」では、見開きや折り込みで写真を掲載し、自然や四季、くらしとの関わり、歌詞の意味が情景から読み取れるよう工夫されている。巻頭には年間の見通しと振り返りができるよう、「学習マップ」が掲載されている。題材毎に、学習目標のキーワードが色付きで示されている。「学びナビ」では学び方やプロセスが具体的に示され、主体的に学習することができるよう工夫されている。全学年で「共通事項」に示された音楽を形作っている要素を「音楽のもと」として各ページに、巻末には「音楽のもと まとめ」が示されている。QRコード（学びリンク）は学習に対応し、意欲を高め、主体的に学びを深める工夫がされている。

教育芸術社「小学生の音楽」では、題材のねらいに沿って、歌唱、器楽、鑑賞、音楽づくりの教材が、多様なジャンルからバランスよく掲載されている。合唱では交互唱から合唱へと系統的に配置されている。歌唱共通教材は「こころのうた」として楽曲の背景が分かる写真や生活や社会との関わりに関する文が添えられている。巻頭には、年間の見通しと振り返りができるよう「学習マップ」が掲載されている。見開きのページ毎に、目標と活動内容が示されている。「見つける」、「考える」、「歌う、演奏する、つくる」のマークでは「どのように学ぶのか」を示し、主体的な活動を引き出すことができるように工夫されている。全学年で「共通事項」に示された音楽を形づくっている要素をどのページも同じ場所に示している。音楽に関わる用語は「がくふマスター」として新出ページと巻末に掲載され、確認をしながら学ぶことができる。QRコード（ムーブの部屋）からは、音源や資料、音楽づくりの専用アプリケーションが利用でき、主体的な学びができるよう工夫されている。

委員

全ての児童にとって学びやすい配慮や工夫はどのようにされているか伺いたい。

選定委員

多様性といった面で考えるとどちらの教科書も専門家による校閲を受け、特別支援教育の視点に立った配慮や色覚等の特性を踏まえた配色、レ

イアウト、文字などの工夫により、全ての児童にとって学びやすい紙面づくりに配慮されている。

委員

芸術科目というのは学ぶというよりは五感を刺激しながら楽しんで色々なところを伸ばしていけばいいと考えるが、思考力や判断力、表現する力を身に付けるための工夫について伺いたい。

選定委員

教育出版では、学習目標が分かりやすく表示され、音楽表現の工夫や鑑賞で味わって聴いたりすることについてのめあてが明確になっている。また「まなびナビ」では、児童の気付きや思いを引き出すような例を示している。

教育芸術社では、児童がどのように学ぶのかを分かりやすく示している。見つける、考える、歌うなどを示すことにより、何をどのように学ぶのかが児童にも分かるようになっている。また、親しみやすいキャラクターの発言として、活動のポイントを例示することで、児童の思いや意図を生かせるように工夫されている。

委員

現在使用している教科書について確認したい。

選定委員

教育芸術社の教科書を使用している。

委員

レイアウトにどのような特徴があるか伺いたい。

選定委員

教育出版では、楽譜や歌詞を大きく表示し、目標のキーワードを色付きで示している。楽譜の間隔を広くとることで児童が見やすく、書き込みしやすいように配慮されている。

教育芸術社では、図形楽譜や楽器のイラスト、写真などを多く提示し、視覚的に理解しやすいように工夫されている。また、見開きのページごとに「何を目標に」、「どのような活動を通して」、「何を学ぶのか」が一目で分かるように示されている。

教育長

音楽の授業ではグループで練習、合唱する場面が多くなる。「主体的・対話的で深い学び」の扱いに関心をもって教科書を確認した。選定委員会では「主体的・対話的で深い学び」の扱いについてはどのように捉えているか伺いたい。

選定委員

音楽科の学習は従来から「主体的・対話的」な要素を多く含んでいる。この特性を生かし、「主体的・対話的で深い学び」により迫ることができるよう、考える視点を具体的に例示しながら、友達との会話や、協働的な学習を引き出す工夫を図っている。

教育出版では、「まなびナビ」を通して、児童が見通しをもった学習ができるようにサポートするとともに、主体的・対話的な深い学びを充実させるために、「学び合う音楽」というものを中学年・高学年に示して、学び方の例を掲載している。

教育芸術社では、見つける・考える・歌うなどのマークを用いて、「何をどのように学ぶか」を分かりやすく示すことで、児童の主体的な活動を引き出せるように工夫したり、子ども同士のイラストを用いて発言の例を示したり、子ども同士の発言を矢印で結び、対話的な学びが深まるように工夫されている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、教育芸術社「小学生の音楽」3票、教育出版「小学音楽音楽のおくりもの」1票となり、音楽は、教育芸術社「小学生の音楽」を採択することとする。

教育長

図画工作について審議及び採択を行う。

選定委員

図画工作の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書2者、開隆堂出版、日本文教出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、開隆堂出版と日本文教出版の2者とした。

開隆堂出版「図画工作」では、図画工作の学習を通して育てたい3つの資質・能力に沿った「学習のめあて」を各題材で明示するとともに、それぞれの題材で中心となるめあてについて強調して示している。また、学習が深められるように6年間の全題材において、めあてに沿った「くふう」、「ひらめき」、「こころ」の3キャラクターが学習のポイントを投げかける工夫がされている。デジタルコンテンツが豊富で、各題材に設けられたQRコードにより学習内容を動画で確認することができるようになっている。また、掲載作品を回転させて鑑賞したり、ワークシートで発想や構想を広げたり、学習を振り返ったりすることができるように工夫されている。「あわせて学ぼう」では、他教科や特別活動等との関連が具体的に示されている。また、「つながる造形」では、図画工作の学習が生活や

社会と関わる事例を例示するとともに、SDGsと関連する作品や取組が掲載されている。

日本文教出版「図画工作」では、「学習のめあて」は3観点を5項目に細分化し、育てたい力をより明確に示すように工夫されている。活動場面ごとに学習のめあて、表現のヒント、鑑賞のヒント、振り返りの4つが示され、それらを関連付けることで主体的・対話的で深い学びが展開できるよう配慮されている。また、学習意欲を高め好奇心を引き出すために、実際の授業で造形活動に取り組む情景写真を豊富に掲載するような紙面構成となっている。デジタルコンテンツが豊富で、題材ごとのQRコードにより活動の中で児童が自分で確かめながら学習を進めるとともに、Webアプリを活用した表現や鑑賞に取り組むことができるよう工夫されている。

「つながる学び」マークを設定し、図画工作の学習と他教科や特別活動、SDGs等との関わりが示されている。また、「広がる図工」により学習活動と生活や社会を関連付けた作品や取組が掲載されている。

委員

児童が興味をもつことが一番大事だと考えるが興味を持たせるための工夫について伺いたい。

選定委員

2者ともにやってみたいという児童の気持ちを大切にした展開となっている。児童が生き生きとした表情や笑顔で活動する様子を多く掲載し、楽しそうだな、やってみたいという意欲を高め、児童が興味をもって学習に取り組めるよう工夫されている。また、題材名や導入の言葉、題材名のデザインの工夫、こういったことにより児童がより興味・関心をもって活動ができるように紙面が構成されている。

開隆堂出版では、目次から見開き3ページ写真付きで1年間の学びの見通しがもてるよう工夫されている。また、題材ページにて左上から下段に同じような内容で毎時間示し、各題材で同じように学習できるよう工夫されている。

日本文教出版では、実際の授業の写真を多数掲載し、好奇心を引き出し、インパクトをもたせるよう工夫されている。各題材の目当てと振り返り、表現のヒントと鑑賞のヒントを関連付けて図工への興味・関心が継続するように工夫されている。

委員

図工におけるICT端末の活用について伺いたい。

選定委員

2者ともにICT端末の活用については授業のさまざまな場面においてICT端末を使った活動ができるように工夫されている。全ての題材にQRコードがついているため、児童の興味や特性に応じてさまざまな画像や動画などを見ることができるようになっている。

委員

図画工作は、児童が興味をもって楽しんで受けてもらいたい教科であると思う。どの教科書も楽しそうにのびのびとした表情の子どもたちの写真が印象的である。そこで、児童が作品を作っていく上で同年齢の子どもたちの作品が掲載されているが、作品数の違いはあるか伺いたい。

選定委員

児童の学習の参考になる作品数については、開隆堂出版は、合計486点、第1学年・第2学年157点、第3学年・第4学年164点、第5学年・第6学年165点、日本文教出版は、合計460点、第1学年・第2学年141点、第3学年・第4学年137点、第5学年・第6学年182点である。

これに加えて、日本人や外国人の作家、文化財・民芸品等の作品数を加えると、開隆堂出版571点、日本文教出版570点となりほぼ同数である。

委員

日本文教出版は、実際の授業に取り組む情景活動が豊富に掲載されているが、コロナ禍のために児童がマスク姿の掲載であるか伺いたい。

選定委員

そのとおりである。

委員

図画工作では、高学年になると危険な道具を使う創作活動があると考えが、その安全面について伺いたい。

選定委員

2者ともに危険な道具を使用する題材ページにおいて材料や用具の使い方について安全面を掲載している。また巻末に特設ページを設け、用具の使い方について写真やイラストで用いてさらに詳しく掲載している。併せて添付されているQRコードを読み取ると動画で用具の使い方について確認することもできる。安全に活動できるような配慮がされている。

教育長

児童の興味をもって取り組むための工夫、児童の生き生きした写真が2者とも掲載されている。特に日本文教出版は授業の様子が写っている点に興味・関心をもてる。最近は水彩画を描く機会が以前より少ないと感じ

る。第3学年から本格的に水彩画の授業が始まるが、水彩絵の具の使い方やパレットの使い方などの指導について伺いたい。

選定委員

第3学年で指導する水彩絵の具パレット等について、2者ともに水彩絵の具を使用する題材ページにおいて絵の具の使い方や筆の使い方について掲載している。また、巻末ページが設けられているため水彩絵の具の使い方、パレットや筆の使い方あるいは色の混ぜ方更には片付けの仕方などについて写真やイラストを用いて詳しく掲載がされている。添付されているQRコードを読み取ると動画で確認することができ、若干動画の違いが確認されたが、開隆堂出版では机の上の物の置き方、筆の洗いかた、色の混ぜ方に加え、左利きの児童への配慮がされている。日本文教出版では同じく机の上の物の置き方、筆の洗いかた、色の混ぜ方、これに加え絵の具の出し方、チューブのふたの拭き方、絵の具のにじませ方など4つの動画で説明するなどの工夫が図られている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、日本文教出版「図画工作」4票、他は0票となり、図画工作は、日本文教出版「図画工作」を採択することとする。

教育長

家庭について審議及び採択を行う。

選定委員

家庭の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書2者、東京書籍、開隆堂出版について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と開隆堂出版の2者とした。

東京書籍「新編 新しい家庭」では、大題材が「見つめよう」、「計画しよう・実践しよう」、「生活に生かそう・新しい課題を見つけよう」の3つのステップで構成されている。活動には「考えよう」、「話し合おう」等が示され問題解決的な学習の流れになっている。小題材ごとに「めあて」と「ふり返ろう」が設定され、見通しをもって学習を進めることができるよう工夫されている。「できたかな」で自己評価項目が示されている。「成長の記録」ではステップ3の「振り返り」からリンクの記載ができ、2年間の学びのポートフォリオが作成できる。QRコードからは、導入で活用する思考ツールや、自分で確かめながら作業等ができるように具体的な実習動画等の資料が見られる。「いつも確かめよう」では、巻頭には衛生・安全に関して、巻末には調理や製作技能に関して、特集ページを

設けている。日本の伝統や家庭や地域に関するコラムを設け、興味・関心を高める工夫がされている。実生活に生かすための生活の課題と実践例を掲載している。

開隆堂出版「わたしたちの家庭科」では、題材は「気づく・見つける」、「わかる・できる」、「生かす・深める」の3つのステップで構成され、学習順序を示し、ステップごとの「学習のめあて」で見通しをもって学習できるように配慮されている。題材の見出しは「なぜ～だろう」など思考を促す文で、小題材では「やってみよう」など実践を促す言葉で、問題解決的な学習の工夫がされている。実習はチェックボックスで、技能の学習成果を確かめることができる。QRコードからは、本文と同じ場面が設定され、画像を見ながら繰り返し学習できる資料が掲載されている。巻末に「実習に役立つワンポイント」で食材の切り方が実物大で掲載され違いが分かるように工夫されている。衛生・安全に関して「なぜそうするのか？」と自分事として安全への注意を捉えられるよう記述されている。多様な視点をもち、将来へ生かすことができるよう「キャリアインタビュー」を掲載している。「豆知識」で用語の解説や関連の事柄を示している。

委員

学習に関心をもたせ、学習効果を高めるためにどのような工夫がされているか伺いたい。

選定委員

両者とも家庭生活に生かしていくことを通じて、家庭生活への関心を高めていけるように3つのステップで題材が展開されている構成になっている。

東京書籍では題材を「課題発見」、「課題解決・実践」、「評価・改善」の3つのステップで問題解決的に学習を進めていく。

開隆堂出版では「気づく・見つける」、「わかる・できる」、「生かす・深める」の3つのステップで改題解決的に学習を進めていく。特に、「気づく・見つける」の段階で「なぜ～なのだろう」という問いかけの一文を示すことで、児童に疑問をもたせ、課題について思考を促すような工夫がされている。

委員

実習もある教科として安全指導の工夫はどのように扱われているか伺いたい。

選定委員

東京書籍、開隆堂出版ともに安全と衛生に関する特設ページを設けている。また、該当箇所「安全マーク」を示すことで、調理や製作の安全について注意喚起を促す工夫が見られる。

特に開隆堂出版では、実習前と実習中、実習後のそれぞれの場面で、安全や衛生に気を付けることについて具体的に示されている。また、「なぜそうするの？」のコーナーで問いと答えを設けることで、自分事として安全への注意を意識できるよう工夫されている。

委員

消費者としての側面、家庭での環境的な視点でどのような工夫があるか伺いたい。

選定委員

両者ともに持続可能な社会をつくる消費者の一員として、環境や資源を考えた買い物の仕方について実践を通して学んでいくことで、主権者教育につながる構成となっている。

東京書籍では、SDGs についての特集ページや特設サイトを設けている。第5学年の早い段階から意識し、学習が進められるように単元構成が工夫されている。

開隆堂出版では、まず資源を生かすものの使い方を学び、次に物とお金との関係を学び、そして、買い物の仕方とその社会への影響について学んでいくといったつながりのある単元展開となるよう工夫されている。

委員

QRコードが掲載されているが、デジタル資料の扱い方はどのようなになっているか伺いたい。

選定委員

両者ともにQRコードを読み取ることで動画を繰り返し視聴しながら学習を進めることができる。

東京書籍は単元の導入場面で活用できるようなデジタル思考ツールが用意されている。

開隆堂出版では、掲載されている写真とQRコードで読み取った動画が同じ場面設定となっているため、掲載されている写真の続きの場面として動画を視聴できる。

また、両者ともにプログラミングについても特設ページを設けている。

教育長

両者ともに問題解決的な学習について工夫が見られるが、その他2者の特徴はどのような点か伺いたい。

選定委員

東京書籍は学習に発展的な学びに活用できるような工夫がされている。また、日本の伝統やその道のプロの言葉などコラムが多く設けることで、児童の関心を高める工夫がされている。

開隆堂出版については、児童に疑問をもたせ、思考を促すことができるように工夫されている。防災に係る特設ページを設けているところも特徴としてあげられる。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、開隆堂出版「わたしたちの家庭科」3票、東京書籍「新編 新しい家庭」1票となり、家庭は、開隆堂出版「わたしたちの家庭科」を採択することとする。

教育長

保健について審議及び採択を行う。

選定委員

保健の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書6者、東京書籍、大日本図書、大修館書店、文教社、光文書院、Gakkenについて、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書は、東京書籍とGakkenの2者とした。

東京書籍「新編 新しい保健」では各項の内容を「気づく・見つける」、「調べる・解決する」、「深める・伝える」、「まとめる・生かす」の4ステップの学習パターンで児童が見通しをもちながら、学習を進められるように工夫されている。学習の最後に要点や覚えるべき用語などが身に付いたかについて確認でき、知識の習得につながるよう工夫がされている。QRコードにより、児童の学びを手助けする動画やシミュレーションなど「技能」を映像で確認できるデジタルコンテンツが豊富にあり、理解を深められる工夫がされている。各項末には資料として、今日的健康課題に関してのトピックが設けられている。オリンピック・パラリンピックアスリートの資料や、中学校への接続を考えた発展的内容の記載もあり、児童自らが生涯にわたって健康を保持増進する資質・能力の育成を図れるよう工夫されている。

Gakken「新・みんなの保健」では、学習の進め方が「ふり返る」、「例をあげて話し合う」、「学びを生かす」という流れになっているため、児童が見通しをもちながら学習を進められるように工夫されている。学習後に自己評価を行ったり、学びを生活に生かすために自分にできることを考えさせたりする工夫がされている。健康安全についての理解

を深め、自らが健康な生活を送れるための技能を身に付けられるよう、「防災」、「心肺蘇生」、「熱中症」など今日的な健康課題を詳しく取り上げている。写真・データが豊富に掲載され、さらにQRコードで詳しい写真、資料等を活用でき、健康に関する関心をより高めることができるように工夫されている。また、学習の振り返りができるシートもデジタル化されている。中学校における学習内容が示され、健康における学習を系統的に行うことができるよう配慮されている。

委 員

「心の健康」についての扱いはどのようなになっているのか伺いたい。

選定委員

推薦すべき2者ともに第5学年、第6学年で扱っている。不安や悩みへの対処として、運動をして気分転換したり、周りの人へ相談したりする等、自分に合った適切な対処をすることが必要であると示されている。

G a k k e nでは、「ほけんのはこ」にて数多くの相談窓口が紹介されている。そして、保健室の養護教諭やスクールカウンセラー等、身近な相談できる人が具体的に示されている。

東京書籍では、「資料」に数多くの相談窓口が紹介されている。パラリンピック選手のメッセージを掲載しているのが特徴である。

委 員

「食育」についての扱いはどのようなになっているのか伺いたい。

選定委員

6者とも、第4学年の「体の発育・発達」の中の「体をよりよく発育・発達させるための生活」において、栄養のバランスのとれた食事の大切さを扱っている。

委 員

2点伺いたい。1点目は、違法薬物を含む、薬に関しての怖さや、正しい使い方についてどのように扱っているか伺いたい。2点目は、多様な性についての取扱い方について伺いたい。

選定委員

薬物乱用については、学習指導要領ではシンナーなどの有機溶剤を取り上げ、乱用が心身の健康に深刻な影響を与えることを理解できることをねらいとしている。各発行者とも写真等の資料を載せ、併せて違法薬物とその害について扱っている。また、医薬品の正しい使い方も同時に学習することになっている。より詳しく扱っているのは、東京書籍とG a k k e nである。

続いて多様な性のあり方についてだが、推薦すべき2者では、2者とも第3学年、第4学年の「体の発育・発達」の発展的な内容として、取り上げている。

G a k k e nでは、「もっと知りたい調べたい」のコーナーで取り上げている。「体の性」、「心の性」があり、その2つが同じ人もいれば違う人もいること、自分の違う性が気になる人もいれば同じ性別の人と仲良くなりたい人もいることから、性についての心は多様であると取り上げている。性に関する悩みを抱えた際の、相談窓口の情報も掲載されている。

東京書籍においても、「資料」の中で取り上げ、「体の性」、「心の性」、「好きになる性」、「表現したい性」があり、一人ひとり、少しずつ違って組み合わせて「自分らしさ」であると示されている。デジタルコンテンツが設けられ動画で学習することも可能である。

委 員

推薦した2者それぞれで「今日的課題」を取り扱っているが、具体的に伺いたい。

選定委員

2者では、「コンピュータやタブレットの使用と健康」、「熱中症」、「胸骨圧迫とAED」、「がん」、「多様な性の在り方」そして「防災」などを発展的な内容として取り上げている。

委 員

「防災」と「今日的課題」は結び付かないと考えるが、その点について伺いたい。

選定委員

第5学年、第6学年の発展的な内容として取り上げている。

G a k k e nでは、「もっと知りたい調べたい」のコーナーで取り上げ、地震による災害例として、家屋の倒壊や津波、火災を挙げている。地震などの自然災害が起こった時の行動や、日頃からの備えについて示されている。さらには、タイムラインの作成についても示されている。

東京書籍でも、地震による災害例として、家屋の倒壊や津波、火災を挙げている。地震などの自然災害が起こった時の行動や、日頃からの備えについて示されている。さらに、避難所で小学生ができることや、他の様々な自然災害について調べることを促す資料が掲載されている。

教育長

全者「がん教育」について扱っているが、どのような特徴があるか伺いたい。

選定委員

推薦すべき2者について説明する。G a k k e nでは、がんの起こり方や予防、検診などで早期発見・早期治療ができることを示している。また、検索資料としてがん研究振興財団の「がんを防ぐための新12か条」が示されている。

東京書籍では、がんの発生の仕組みについて映像で学ぶことができるようになっている。併せて予防や、検診などで早期発見・早期治療ができることを示している。また、がん研究振興財団の「がんを防ぐための新12か条」が示されている。

教育長

「救命教育」について、特にA S U K Aモデルについての扱いについて伺いたい。

選定委員

6者全てにおいて、A E Dの資料を扱っている。特に、東京書籍、大修館書店、光文書院、G a k k e nにはA S U K Aモデルの記載がある。

東京書籍では、デジタルコンテンツで「A E Dの使い方」のコンテンツが設けられていることで実際のやり方を動画で見ることができるように工夫されている。また、桐田明日香さんの母親の寿子さんのメッセージが記載されている。

G a k k e nでは、デジタルコンテンツで「119番通報」の練習ができるコンテンツが設けられている。

教育長

本市は、健全な児童生徒の育成を目指し、「がん教育」、「救命教育」、「防災教育」に力を入れている。これらの力を確実に身に付けるためには、「川越授業スタンダード」に沿って授業を行っていきたいと考えている。そのうえで、推薦すべき2者における教科書の使いやすさを伺いたい。

選定委員

2者とも、思考力・判断力・表現力等を育成するために習得した知識を活用し、課題解決型の学習となっているが、それぞれ特徴が異なる。

G a k k e nでは、まず振り返ったり読み取ったり、調べたりする「自分で取り組む課題」が設定され、次に話し合ったり説明したりする「みんなと関わり合って取り組む課題」が設定されている。最後に、学習したことを活用し、課題を解決する展開となっている。学習課題ごとに、自分で考えたことや友達と話し合ったことを記入する欄に枠や罫線が記されているのも特徴である。

東京書籍では、読み取ったり、調べたりする「調べる・解決する」の活動が1つ、または複数設けられている。

その後、話し合ったり説明したりする「深める・伝える」の活動が設定され、学習したことを活用し、課題を解決する展開となっている。デジタルコンテンツが他者と比べて豊富で、視覚的に情報が得ることができ、課題解決の手助けとなるのも特徴である。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、G a k k e n「新・みんなの保健」3票、東京書籍「新編新しい保健」1票、他は0票となり、保健は、G a k k e n「新・みんなの保健」を採択することとする。

教育長

英語について審議及び採択を行う。

選定委員

英語の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書6者、東京書籍、開隆堂出版、三省堂、教育出版、光村図書出版、新興出版社啓林館について、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍と開隆堂出版の2者とした。

東京書籍「NEW HORIZON Elementary English Course」では、各単元のはじめに、単元の目標(Our Goal)と各パートのめあてが提示してあり、児童が見通しをもって学習を進められるよう工夫されている。各単元は、導入でイラストや写真を見ながら新たな表現や単語を聞き「Your Turn」でペアやグループでコミュニケーション活動を行い、基本的な表現に慣れ親しみながら基礎知識を習得できるように工夫されている。「Enjoy Communication」では、既習表現を用いながら、児童が実生活に結び付くコミュニケーション活動を行う工夫がされている。また、「Over the Horizon」では、単元のテーマに関連した世界の題材を扱い、インタビュー等を視聴して異文化理解を深めるように工夫がされている。QRコードを読み取ると、音声を聞いたり、映像を見たりすることができ、児童が自分のペースで学習することができるよう工夫がされている。別冊「My Picture Dictionary」では調べた単語をマイ単語として記入できる。また、巻末には「CAN-DOの樹」があり、学習したことの振り返りができるよう工夫がされている。

開隆堂出版「J u n i o r S u n s h i n e」では、各単元のはじめに「G O A L」として身に付けさせたい力が示され、学習の見通しが立てられるようになっている。各単元は、導入で映像を見て新たな表現を聞き、「L e t ' s P l a y」、「L e t ' s L i s t e n」、「A c t i v i t y」で、外国語の音声や基本的な表現に十分慣れ親しみ、「L e t ' s L i s t e n a n d R e a d」、「L e t ' s W r i t e」で読んだり書いたりする活動に結び付けるような工夫がされている。思考力・判断力・表現力等を高めるために、「A c t i v i t y」が3つに分かれ、段階を追った活動を設定する構成の工夫がされている。また、「A r o u n d t h e W o r l d」では、単元のテーマについて海外の生活や文化を紹介し、異文化や自国の魅力を考えることができるように工夫されている。QRコードを読み取ると、音声や動画関連のページにアクセスでき、児童が必要な学習を進める工夫がされている。別冊「W o r d B o o k」では単語等がジャンル別にまとめられている。また、レッスン後の「C A N - D Oチェック」や「L e t ' s C h e c k」で学習したことがどのくらい身に付いているかを確かめる工夫がされている。

委 員

児童が英語嫌いにならないための配慮等がされているか伺いたい。

選定委員

どの教科書もキャラクターがアニメのように親しみやすく、楽しく学べるよう配慮がされている。

東京書籍は、単元冒頭にアニメーション映像があり、ストーリーを通じて児童が楽しみながら学習に取り組めるような工夫がある。

開隆堂出版は、児童と同世代のキャラクターが繰り広げる日常生活を楽しみながら学習に取り組めるような工夫がある。

委 員

推薦する2者において、中学校の英語との接続について、どのような工夫があるか伺いたい。

選定委員

どの教科書も中学校や将来、夢について扱うページがあり、中学校を意識させている。

東京書籍は、巻末に中学校の生活や学習内容を想像させるページが用意されている。

開隆堂出版は、中学校でもよく使用される語句にマークが付いているため、児童に使いやすい英語を選ぶ目安にしている。

三省堂や教育出版では、第6学年の教科書には、中学校生活を展望する単元が配置され、中学校への接続を円滑にする工夫がされている。

光村図書は、「英語の学習を続けていこう」があり、中学校の英語学習で身に付けていく力、できるようになることを紹介している。

新興出版社啓林館は、第5学年後半から、徐々に文字を読んだり書いたりする機会を増やし、中学校での学習につながるように工夫している。

委員

「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」などの、児童の実生活に即した言語学習という点において、どのような工夫が見られるか伺いたい。

選定委員

開隆堂出版は、「A c t i v i t y」が3つに分かれている。第1段階では考えや気持ちを伝え合い、第2段階では相手に自分のことを分かってもらえるように伝える内容を整理する。第3段階では実際に自分のことを伝え合う活動となるよう段階を追った設定で構成されている。特に第2段階では、褒めたり、質問したり、励ましたりする例も載っている。

東京書籍は、「L e t ' s T R Y」でペアやグループでのやり取りを行う。さらに「E n j o y C o m m u n i c a t i o n」で自分の考えや思いを伝え合う活動が設定されている。

委員

現在小学校及び中学校で使用している教科書について確認したい。

選定委員

東京書籍の教科書を使用している。

委員

ラウンドシステムの学習スタイルに関して各者どのような特徴があるか伺いたい。

選定委員

他者に比べ、光村図書と新興出版社啓林館はストーリー性を特に意識した構成になっていることから、この2者が適していると考ええる。

光村図書は、ストーリー性の高い構成であり、「ラウンド制指導ガイド」が付属しているため、ラウンドシステムを活用して授業を行うことも可能である。

新興出版社啓林館は、既習事項を生かしながらスパイラルに学習できるような内容になっている。ラウンドシステムを活用した授業の可能性も考えられる。

委員

2 者の英語指導助手の活用について、どのような工夫があるか伺いたい。

選定委員

開隆堂出版は、ティームティーチング用指導案が添付されている。

東京書籍は、A E T用の英語版テキストが用意されている。

委 員

家庭学習という点において、どのような工夫が見られるか伺いたい。

選定委員

どの教科書もデジタルコンテンツを活用して、家庭学習に活用できるようになっている。

東京書籍は、教科書に準拠したドリル型のデジタル教材があり、「聞く」、「読む」、「書く」について、効果的に学習ができ、家庭学習でも利用できるようになっている。

開隆堂出版は、自分のペースで学ぶことができるようなデジタルコンテンツが用意されている。

光村図書は、フラッシュカードが搭載され、絵と文字のサイズの調整や、速さの調整が児童にも簡単にできるため、家庭学習でも利用できるようになっている。

教育長

「話す」という活動に関して、どのような工夫が見られるか伺いたい。

選定委員

東京書籍は、学習した内容を使って自分の考えや思いをペアで伝え合いながら、話題を広げられる工夫がされている。

開隆堂出版は、自分や身近な人たちのことから、地域や日本、興味のある外国のこと、思い出や将来の事へと話題を広げ、互いの考えや気持ちを伝え合う活動を全単元同じ構成にすることで、安心して考えや気持ちを伝え合える工夫がされている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、開隆堂出版「J u n i o r S u n s h i n e」4票、他は0票となり、英語は、開隆堂出版「J u n i o r S u n s h i n e」を採択することとする。

教育長

道徳について審議及び採択を行う。

選定委員

道徳の教科用図書調査研究専門員会において、教科書目録に掲載されたすべての教科書6者、東京書籍、教育出版、光村図書出版、日本文教出版、光文書院、G a k k e nについて、調査研究を行った。それらの調査研究結果を選定委員会において協議・検討した結果、推薦すべき教科書を、東京書籍とG a k k e nの2者とした。

東京書籍「新編 新しい道徳」では、教材冒頭はシンプルに構成され、実態に応じて柔軟に学習できるように工夫されている。「いじめ」、「いのち」、「じぶん」を全学年同時期に配列し、いじめ問題や生命の尊さについて学校全体で取り組めるよう工夫されている。読み物教材では、動作化や役割演技によって体験的に考える活動や「ちょっと話し合ってみよう」では対話による学び方が示され、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。巻末には、心に残った教材や、これからの生活に生かしたいことを書くことができる「学習の記録」が設けられ、学習を振り返ることができるよう工夫されている。また、自分の考えを可視化する思考ツールが例示され、第4学年以上には「心情円」が付いているため、切り取って授業で活用できるようになっている。デジタルコンテンツが用意され、朗読、スライドショー、デジタルノートなどの関連資料を読み込むことができる。第1学年の教材「みつけてみよう」に「時の鐘」の紹介がされている。

G a k k e n「新版 みんなの道徳」では、児童が主体的に価値について考えられるよう教材冒頭は主題名ではなく、児童の興味や関心を高めるキーフレーズが記載されている。「いのち」、「みんなで」、「未来へ」を全学年で設定し、いじめなどの心の問題については、複数の教材を用いて幅広い視点から学習できるように工夫されている。低学年には物語教材、中・高学年には様々な人物の生き方から学ぶ教材など発達段階に応じた教材を取り上げている。「現代的な課題マーク」を各教材に示し、児童を取り巻く社会や環境に目を向けながら、自己の生き方について考えを深められるよう工夫されている。巻末には学習を通して心に残った言葉や人に伝えたい言葉を書くことができる「つなげよう広げよう」が設けられ、学びを振り返られるよう工夫されている。デジタルコンテンツが用意され、教材に関連したクイズ形式の動画などが見られるようになっている。

委 員

「いじめ」、「生命の尊さ」についてどのように扱っているか伺いたい。

選定委員

各者とも、いじめの問題、生命の尊さについては、複数の教材を組み合わせるユニット形式を採用している。特徴的な教科書は、東京書籍、教育出版、G a k k e nである。

東京書籍では、いじめ防止に関わる3つのユニット（いじめ防止・生命尊重・自己肯定感）として、全学年同じ時期に配当し、学校全体でいじめ問題に向き合えるようになっている。

教育出版では、いじめ防止を重点テーマとし、ユニット構成にしている。年間を通して各学年2から6教材を取り上げ、発達段階に応じて、場面や視点を段階的に広げている。

G a k k e nでは、「いのちのユニット」を全学年で設定し、いのちを最重点テーマとして、生命の尊さを含めた内容項目の異なる複数教材で多面的・多角的に考えられるよう教材を配列している。また、いじめ防止に関連する教材には、教材のタイトルの下に「いじめ防止」のマークを示し、児童が意識できるように工夫されている。

委 員

考え、議論することが重要だが、教える側の指導力によって、扱いやすさの違いはあるか伺いたい。

選定委員

教える側の指導力によって扱いやすさの違いはある。経験の浅い教員は、教科書に掲載されている発問例を参考に授業を組み立てることができるのはメリットだが、その指導法が全てという捉え方をしてしまうのはデメリットである。経験のない教員にとっては、発問例が多すぎると指導で迷うことも想定できる。

委 員

児童が主体的に考え、道徳性を養える工夫があれば伺いたい。

選定委員

東京書籍では、自分の考えを可視化するための様々な思考ツールを例示している。また、第4学年以降は巻末に「心情円」が付録として付いている。全学年に「演じて考えよう」では、動作化や役割演技によって体験的に考える活動が設定されている。また「問題を見つけて考えよう」という学習指導過程も全学年で設定され、考えを深めるための指導法が例示されている。

G a k k e nでは、各読み物教材の末尾に「考えよう」を設定して、教材の中心発問や、自己を振り返る発問の例を示している。「深めよう」では、授業展開に沿いながら道徳の学び方を提案している。

委 員

持続可能な未来に関して、どのように扱っているか伺いたい。

選定委員

各発行者ともに工夫や配慮が見られる。

光村図書では、SDGsを自分事として考えられるように児童の発達段階に寄り添った話題を取り上げ、6年間で17の目標全てに触れることができるようにしている。

日本文教出版では、巻末「SDGsで考えよう」で教科書の内容が17のどの目標に関連しているか考えることができるように工夫されている。

Gakkenでは、SDGsをはじめとした現代的な課題に関する教材にマークが、目次や各教材タイトルに付けられている。

教育長

ワークシートといった別冊が付属している教科書は、日本文教出版のみであるが、ワークシートを用いて書く事が中心で、あまり話し合っていない授業を見かける。その点について、選定委員の考えを伺いたい。

選定委員

ワークシートについては日本文教出版で扱っている。実際のワークシートでは、授業が終わった後に心に残ったことを書いておくといった、自由記述のかたちになっている。友達と議論、考えを練り合わせ、発表し合いながら、自分の考えと向き合う。活動が終わったあとにワークシートを活用できるようになっている。そのため、書くことに夢中になり、議論することが疎かになるような使い方をしなければ、有効なものであると考える。

教育長

推薦すべき2者は、道徳性を養う点においてどのような工夫がされているか伺いたい。

選定委員

東京書籍では、メインの読み物教材に付属している「つながる・ひろがる」では、コミュニケーション活動を通して、人間関係の構築ができるよう工夫されている。発達段階に応じた身近なシチュエーションを基に、情報化社会での生き方を考えられる構成になっている。

Gakkenでは、低学年には物語教材、中・高学年になると様々な人物の生き方から学ぶ教材など、発達段階に応じた教材を取り上げている。

「いのち」、「多様性」、「キャリア」の3つのユニットを構成し、2教材連続して学べるように配置し、様々な側面から考えられるよう工夫されている。

(教育長及び教育委員による投票)

教育長

開票の結果、G a k k e n「新版 みんなの道徳」４票、他は０票となり、道徳は、G a k k e n「新版 みんなの道徳」を採択することとする。

１０ その他

- １ 議案第２５号の関係者として、小学校用教科用図書選定委員会委員である川越小学校校長、今成小学校校長、牛子小学校校長、霞ヶ関東小学校校長、霞ヶ関西小学校校長の出席について各委員が承認し出席が認められた。
- ２ 会議録署名委員として、長谷川教育長職務代理者、飯島委員が指名された。
- ３ 会議について１１名の傍聴があった。